

審査について

「エクセレントNPO大賞」の審査は、応募者の皆様と同様にエクセレントNPO評価基準を用いて行います。

※「エクセレントNPO基準」の著作権は特定非営利活動法人言論NPOに帰属します。

私的かつ非商業目的で使用する場合、その他著作権法により認められる場合を除き、事前に言論NPOの書面による許可を受けずに、複製・公衆送信・改変・切除・ウェブサイトへの転載等の行為をすることは、著作権法により禁止されています

◎本賞応募の際の自己評価基準（2020年度）

●市民性

- ☐ ボランティアの役割を明確に示し、また、活動計画の中にそれを組み入れていますか。
- ☐ 広くボランティア参加の機会を拓き、その活動内容や参加条件等を分かり易く説明していますか。
- ☐ ボランティアに対して事前の説明や研修等を行っていますか。
- ☐ ボランティアから感想や意見を聞くふりかえりの機会を作っていますか。感謝の気持ちを伝えていますか。
- ☐ 寄付の使途や成果などについて時期を逃さずに丁寧に報告していますか。

●課題解決力

- ☐ あなたの団体は自ら取り組んでいる課題を具体的に把握し、明確に説明できますか。
- ☐ あなたの団体が取り組む課題について、その背景にある原因に目を向け、法制度や慣習などの社会の仕組みにかかわる問題を視野に入れていますか(社会的インパクトの視点)。
- ☐ 事業を予定通りに実施したことだけでなく、事業の対象(人および自然環境などの人以外のものも含む)へのプラスの影響や変化を成果として目指していますか(アウトカム目標)。
- ☐ リーダーは、課題解決のために中心的な役割を担い、また組織内外の専門家、資金などの資源を組み合わせ、それらをうまく機能させるためにマネジメント力を発揮していますか。
- ☐ あなたの団体は前々項で掲げた目標(アウトカム目標)に基づいて出した成果について、根拠(データや事例)をもって説明できますか。
- ☐ あなたの団体が取り組む社会課題を広く社会に理解してもらうよう努めていますか。

●組織力

- ☐ あなたの団体は、組織の全体像を明確に説明できていますか(H P 等に、組織の目的、活動内容、連絡先、事業報告書、会計報告書、役員一覧等が説明されている)。
- ☐ 特定の資金源に過度に依存せず、広く多様な主体から資金を集め、収入多様性を維持していますか。
- ☐ 資金調達のプロセスは透明で、社会倫理に反するような資金は受け取っていませんか。
- ☐ あなたの団体は、スタッフ(常勤、非常勤を問いません)に組織の使命、目的をきちんと説明し、彼らが、仕事に取り組み、スキルアップできるように助言・相談や教育の場を設けていますか。

*本表彰は自己評価が適切に行われたかを重視して審査が行われます。全項目において満点をつけるのではなく、組織や活動における課題を見据え、その課題を克服するための工夫や対応を示すことが重要です。こうした点に注意して適切な自己評価結果を記してください。

*応募用紙をダウンロードしていただくと、項目ごとに自己採点時の注意点や評価のポイントが記されています。記述の際にご参照ください。

*ご不明な点やご質問は、メールアドレス(enpo@genron-npo.net)までお問い合わせください。

<http://www.excellent-npo.net/>

※「エクセレントNPO」をめざそう市民会議は言論NPOが組織し、事務局を務めています。

第8回 エクセレントNPO大賞

Excellent NPO Awards

2020年度 募集要項

「エクセレントNPO大賞」は、質の向上をめざし、自己評価を行いながら改善につとめる非営利組織を応援し、その活動が社会に「見える化」をすることを目的としています。



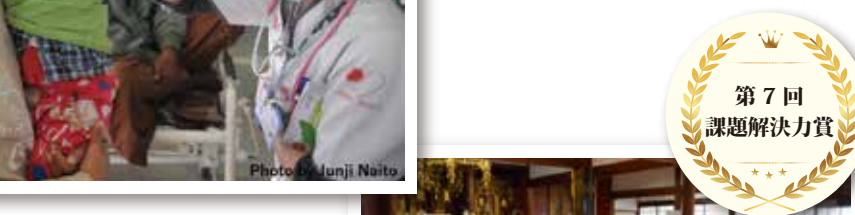
ジャパンハート
(東京都台東区)

「医療の届かないところに医療を届ける」をミッションに掲げ活動する、日本発祥の国際医療NGO。毎年700名以上のボランティアがミャンマー、カンボジア、ラオスで医療活動を行い、年間約2万件の治療を実施。日本国内の僻地離島への看護師派遣、小児がんの子どもと家族の外出支援、災害時の緊急支援にも取り組む。



メドゥサン・デュ・
モンド ジャポン
(東京都港区)

「誰もが治療を受けられる未来を」をモットーに世界各地で人道医療支援を行う国際NGO。国籍や人種、宗教などのあらゆる壁を越え、弱い立場にある人々のもとに医療・保健・衛生分野の専門家ボランティアらを派遣。現地医療従事者の自立支援から問題解決のための政策提言も行う。



ぎふ学習支援ネットワーク
(岐阜県岐阜市)

地域で子どもの貧困問題に取り組む様々な団体がネットワーク化して活動。子ども達が未来に希望をもてる社会を作るため、自治体や様々な機関と連携して、交流や研修会、新たな学習支援実施団体の立ち上げ支援や、貧困問題の解消に向けた行政への提言なども行う。



とりで
(山口県岩国市)

「子ども食堂」や「学習支援」などの居場所づくりを通して、他人を頼ることで「子育て」だって休んでいいと思えるような文化を地域に根付かせることを目的に「子育て支援」の活動を行っている。

《主催》



「エクセレントNPO」をめざそう市民会議 in 言論NPO

《共催》 毎日新聞

《協賛》 住友商事(株) 野村ホールディングス(株) 日本生命保険相互会社
SCSK(株) (株)IHI (株)りそなホールディングス

《協力》 (株)LITALICO Institution for a Global Society(株)

《後援》 内閣府 文部科学省 総務省 中央共同募金会 ドラッカー学会

日本国内では、5万を超すボランティア団体、非営利組織(NPO)がさまざまな分野で活動をしています。その中で、優れた団体の条件とは何でしょうか。

私たち「『エクセレントNPO』をめざそう市民会議」では、客観的な自己評価の能力を身につけたうえで、市民とのつながりをより強め、最終的に優れた結果を出すことだと考えています。すなわち、

組織運営の弱点を改善
しようと務める

組織力

より多くの市民の参加
と支持を得る

市民性

課題を正確に認識
して成果を出す

課題解決力

という3つの基本条件です。そして私たちは各条件に対応した合計15項目の自己評価基準を用意しました。

応募団体にはまず15項目について自己採点していただき、審査委員会がその結果と事業内容などを照らし合わせたうえで「市民賞」「課題解決力賞」「組織力賞」の3賞を決定します。

本賞は一部の卓越した団体の表彰がゴールではありません。審査を通じてNPO活動の質の向上をめぐる競争を促し、努力した団体にはより良質な支援が集まる好循環を生み出すことがゴールです。このため、応募されたすべての団体の自己評価書(応募用紙)に対して、フィードバック・レターをお送りします。

多くの団体のエントリーをお待ちしています。

◎募集要項

【応募資格】

国内外における社会貢献を目的とした市民による日本国内のNPO
など種々の民間非営利組織(法人格の有無、種類不問) ※自薦・他薦可

【応募期間】

2020年10月1日(木)～12月11日(金)必着

【応募方法】

- ・本賞にご応募される方は以下のアドレスから応募用紙をダウンロードしてください。
「エクセレントNPO 大賞運営事務局」(<http://www.excellent-npo.net/>)
- ・応募用紙はエクセル形式になっており、次の①～③シートによる3枚構成です。
 - ①団体プロフィール(団体概要、事業報告書、会計報告書、役員はHPアドレス記入)
 - ②自己評価表
 - ③団体のストーリー
- ・記入した応募用紙は**応募専用アドレス**(info@excellent-npo.org)までメール添付にてお送りください。
- ・正しく受信ができた場合は受領メールが自動返信されます。もし受領メールが届かない場合には再度送信してください。
- ・ご不明な場合には、下記事務局までお問い合わせください。

【審査方法】

審査委員会により、エクセレントNPO基準に基づいて第一次審査、第二次審査を実施し、最終的な受賞団体を決定します。表彰式後、全ての応募団体にフィードバック・レターをお送りします。

【審査委員】

(敬称略)

小倉 和夫(国際交流基金顧問)、島田 京子(元横浜市芸術文化振興財団専務理事)、前田 浩智(毎日新聞社論説委員長)、
目黒 公郎(東京大学生産技術研究所教授)、近藤 誠一(近藤文化・外交研究所代表、元文化庁長官)、
新田 英理子(SDGs市民社会ネットワーク理事・事務局長)、山岡 義典(法政大学名誉教授)、渋谷 篤男(中央共同募金会常務理事)

【表彰】

2021年3月29日(月)に毎日ホール(毎日新聞東京本社地下1階)で表彰式を行います。各部門ごとにノミネートされた4～5団体をご招待し、その活動のご紹介とともに活動表彰を行います。その中から各賞受賞団体およびエクセレントNPO大賞受賞団体を発表いたします。ノミネートが決まった団体には事前にご連絡いたします。

【事務局】

応募受付・審査進行管理:「エクセレントNPO」をめざそう市民会議事務局
〒103-0013 東京都中央区日本橋人形町3-7-6 LAUNCH日本橋人形町ビル5階 言論NPO内
Tel. 03-3527-3972(平日9時30分～17時30分受付) Fax. 03-6810-8729(24時間受付)
お問い合わせ用メールアドレス(enpo@genron-npo.net)

◎賞の構成

「エクセレントNPO」の基本条件である「市民性」「課題解決力」「組織安定性」に基づき、下記の3つの部門賞が設けられています。また、各受賞団体の中から最も優れたNPOとして、「エクセレントNPO大賞」が決定されます。なお、基本条件の詳細については、認定NPO法人 言論NPO発行の言論ブログ・ブックレット⑩『改訂版「エクセレントNPO」の評価基準「エクセレントNPO」を目指すための自己診断リストー初級編ー』をご参照ください。



●エクセレントNPO大賞 <賞状・賞金50万円>

「大賞」は、以下の3つの部門賞の受賞者の中から選ばれます。受賞団体は毎日新聞本紙、及び関係地方版でご紹介します。(ただし、一定の水準を超える組織がない場合は、該当者なしとする場合もあります)
※大賞賞金は、下記の賞金に加算して贈呈いたします。また毎日新聞の特集記事として掲載されます。

《部門賞》

●市民賞

<賞状・賞金30万円>

非営利組織の活動が広く市民に開かれている団体に与えられる賞です。ここでは、ボランティアや寄付を通して参加の機会が提供されており、参加者に市民として成長できる場が十分に提供されているかが評価の視点となります。



●課題解決力賞

<賞状・賞金30万円>

自らの使命のもとで、社会的な課題解決に向けて成果を出している団体に与えられる賞です。ここでは、明確な課題の把握、適切な解決方法、リーダーシップ、評価の力が問われます。



●組織力賞

<賞状・賞金30万円>

責任ある活動主体としてガバナンスが機能し、経営の持続性の維持と、自らの組織改善の刷新性をうまく共存させている団体に与えられる賞です。ここでは、資金調達の透明性や規律、収入源の多様性、情報開示などが問われます。



2020年度だけの特別賞

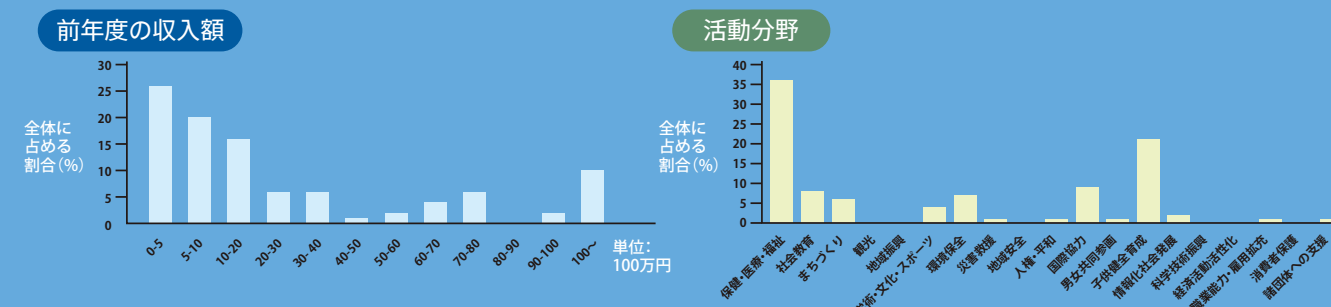
●コロナ対応チャレンジ賞<賞状・賞金10万円> ※詳細は添付の別紙参照

◎これまでの受賞団体

- | | |
|-----|--|
| 第1回 | 市民賞：Youth for 3.11
課題解決力賞：高木仁三郎市民科学基金
組織力賞：スペシャルオリンピックス日本 |
| 第2回 | 市民賞：プール・ボランティア
課題解決力賞：多文化共生センター東京
組織力賞：かものはしプロジェクト
大賞／組織力賞：難民支援協会 |
| 第3回 | 市民賞：ママの働き方応援隊
課題解決力賞：にじいろクレヨン
大賞／組織力賞：シャプラニール
＝市民による海外協力の会 |

- | | |
|-----|---|
| 第4回 | 市民賞：さばうとにじゅういち
市民賞：ACE
大賞／課題解決力賞：SOS子どもの村 JAPAN
組織力賞：杜の伝言板ゆるる |
| 第5回 | 市民賞：アルテピアッツァびばい
大賞／課題解決力賞：Learning for All
組織力賞：ホームホスピス宮崎 |
| 第6回 | 市民賞：みらいの森
課題解決力賞：エイズ孤児支援 NGO・PLAS
課題解決力賞：フードバンク山梨
大賞／組織力賞：がんサポートコミュニティ |
| 第7回 | 大賞／市民賞：ジャパンハート
課題解決力賞：ぎふ学習支援ネットワーク
組織力賞：メドウサン・デュ・モンド ジャパン
チャレンジ賞：とりで |

応募団体は多種多様。規模もさまざまです。活動分野は保険や医療、福祉以外にも多岐に渡っています。(2019年度実績)



- ・収入規模は小ささまざまなものが比較的偏りなく分布しており、全国的なNPOの団体規模の傾向と一致しています。
- ・応募団体はバラエティに富んでおり、複数回にわたり応募される団体が増えています。
- ・活動分野では「保険・医療・福祉」、「子供健全育成」、「国際協力」が比較的多いと言えます。

Excellent NPO Awards
『第8回エクセレントNPO大賞』

募集スタート!

大賞は、「市民性」、「課題解決力」、「組織力」の3つの視点から選出されます。
またコロナ禍の中で奮闘する団体を対象にした「コロナ対応チャレンジ賞」も創設しました。
非営利組織でがんばっている皆様に応援します。ふるってご応募ください。

応募方法はこれから↓

エクセレントNPO

検索

<http://www.excellent-npo.net/>

締め切り：2020年12月11日（金）

◆ 賞金 ◆

市民賞、課題解決力賞、組織力賞（各30万円）、
上記受賞団体から、エクセレントNPO大賞（50万円）
このほか、コロナ対応チャレンジ賞（10万円）

◆ 新聞掲載 ◆

入賞およびノミネート団体は毎日新聞の特集記事として紹介されます
※裏面に昨年掲載記事

◆ フィードバック ◆

入賞の有無に関わらず、応募された団体全てに、自己評価に基づいて、
良かった点や改善を要する点をコメントにしてお返しします

◆ 表彰式 ◆

2021年3月29日（月）に東京都内、毎日ホールでの開催を予定

主催：  「エクセレントNPO」をめざそう市民会議 in 言論NPO

共催： 毎日新聞

協賛： 住友商事（株）、野村ホールディングス、日本生命保険相互会社、SCSK（株）、
（株）IHI、（株）りそなホールディングス

協力： （株）LITALICO、Institution for a Global Society（株）

後援： 内閣府、文部科学省、総務省、中央共同募金会、ドラッカー学会

■ エクセレントNPO大賞表彰式



社会の課題解決に取り組む優れた非営利組織（NPO）を顕彰する「第7回エクセレントNPO大賞」（「エクセレントNPO」をめざそう市民会議主催、毎日新聞社共催）の表彰式が11日、東京都千代田区の毎日ホールであった＝写真。97団体の中から国際医療ボランティア団体「ジャパンハート」（東京都台東区）が大賞に選ばれた。

表彰状を受け取った佐藤抄・事務局長は、アフガニスタンで福岡市の非政府組織（NGO）「ペシャワール会」現地代表の中村哲さんらが殺害されたことに触れ、「社会を担う組織としてNPO、NGOの地位を向上させたい。引き続き応援してほしい」と話した。ジャパンハートは小児科医の吉岡秀人さんが仲間の医師や看護師らと2004年に設立。東南アジア3カ国で活動、18年度は学生ら一般ボランティアも含め延べ約4500人が参加した。

部門賞は以下の通り。課題解決力賞＝12団体が協力し子どもの貧困問題に取り組む「ぎふ学習支援ネットワーク」（岐阜市）▽組織力賞＝国際医療支援団体「メドゥサン・デュ・モンド ジャパン」（東京都港区）▽チャレンジ賞＝自立援助ホームやファミリーホームの運営を軸に地域の子育て支援も行う「とりで」（山口県岩国市）

△ 第7回エクセレントNPO大賞／

表彰式記事

（2019年12月12日付 毎日新聞朝刊）

毎 日 新 聞

くらしナビ ライフスタイル

（第3種郵便物認可）



ジャパンハートの活動について語る吉岡秀人さん＝東京都内で

チャレンジ賞を試行

エクセレントNPO大賞は、市民性、課題解決力、組織力の観点で評価基準を設け、各部門賞の中から大賞を選出する。応募は97団体だった。今回は入門編として評価基準項目を減らした「チャレンジ賞」を試行し、2020年から正式に新設する。

ノミネート団体は次の通り。◎は部門賞。＜市民賞＞◎ジャパンハート▽こまちぶらす（横浜市）▽DXP（大阪市）▽にじいろクレヨン（宮城県）▽二枚目の名刺（東京都渋谷区）＜課題解決力賞＞◎ぎふ学習支援ネットワーク（岐阜市）▽きらびとみやしろ（埼玉県）▽サラブリトレーニング・ジャパン（岡山県）▽日本レスキュー協会（兵庫県）▽ReBit（新宿区）＜組織力賞＞◎メドゥサン・デュ・モンド ジャパン（港区）▽みらいの森（港区）▽民衆センター（中央区）▽ロシナンテス（北九州市）＜チャレンジ賞＞◎とりで（山口県）

＜協賛＞住友商事▽野村ホールディングス▽日本生命保険相互会社▽日本たばこ産業▽三菱UFJ銀行▽SCSK▽りそなホールディングス

届かないところに届ける

社会的な課題の解決に尽力する非営利組織（NPO）を顕彰する「第7回エクセレントNPO大賞」（「エクセレントNPO」をめざそう市民会議主催、毎日新聞社共催）の大賞に、国際医療ボランティア団体「ジャパンハート」（東京都台東区）が選ばれた。活動参加者の2割以上が学生を含む一般の人で、医療者に限らず広く機会を開いた市民性の高さが評価された。

第7回エクセレントNPO大賞
国際医療ボランティア団体
「ジャパンハート」

● 海外で治療3万件
活動のきっかけは1995年、最高顧問で小児外科医の吉岡秀人さん（54）が、第二次世界大戦でミャンマーで亡くなった日本人の慰霊団から、現地で医療提供を頼まれたことだった。当初は貯金を取り崩して医療機材や薬代の一部に充て、貧しい人々に無償で医療を行った。

2004年、「医療の届かないところに医療を届ける」を理念にジャパンハートを設立した。現地の病院で無料の治療を続けるほか、10年にはエイズなどの病気を親を亡くした子どもたちが暮らす養育施設「ドリームトレイン」を開設した。

近隣国にも活動を広げ、09

年にカンボジア、13年にはラオスで医療支援を開始。カンボジアでは16年に病院を開設し、小児がん治療に力を入れた。18年度の海外での治療は約3万件に上った。

日本国内でも活動する。小児がん患者の外出を医療者がサポートする「SmileSmilePROJECT」のほか、へき地や離島に看護師を派遣する地域医療支援に取り組む。吉岡さんは活動に一般の人

も参加することについて、直接、僕らの活動を見て、寄付の使われ方を確認できる。医療は医療者だけでなく、いろんな分野の人が関わりでいてい」と語る。

一年間の約3分の2を海外で過ごす。ミャンマーでは1日二十数件の手術があり、夕方まで行つこともあったが、思

うような医療が提供できないこともある。1日に2時間しか電気が通らず、発電機もなかった時は、全身麻酔に必要な人工呼吸器が使えず、局所麻酔などを使つたという。

● 資金の支援が重要
19年12月には、同様に海外で医療支援などに取り組む福岡市の非政府組織（NGO）「ペシャワール会」現地代表の医師、中村哲さんがアフガニスタンで殺害された。吉岡さんは「中村先生が生きていた間にもっとみんなが支援したなら、10倍ぐらいの成果になっていた」と思ふ。

活動資金を「靴」に例え、「いい靴を履けば山を速く駆け上がる。裸足だと痛くて、恐る恐るしか上がっていかない。いい靴を履かせられるかどうかは国民にかかっている」と訴える。今後については「僕らは社会の要求に応えていくだけ。今日、助けられなかった人を次で助けられるようにする」と語る。

活動への参加方法は、団体への寄付のほか、病院運営の国際ボランティア、学生インターシップなどがある。問い合わせは東京事務局（03・6240・1564）。

【御国生枝里、写真も】

△ 第7回エクセレントNPO大賞／受賞者特集記事（2020年2月2日付 毎日新聞朝刊）